

D R E A M、夢

三十分程、いい心地で眠っていた。目が覚めても、ぼおーとして、いい気持ちだった。窓を開けて、外を見ると、春風がほっぺをなでる。

僕は春風を探しに、宇治川の河原へ自転車で行く事にした。近鉄の、緑の鉄橋の橋げたそば迄、来て、立ち止まり、宇治川の景色に見とれていた。なに気なく、橋の四すみにあるジョイントに、僕は注目した。

このジョイントだけで、あの重い橋が、地べたに接している。あの重さが、この一点に集中して、支えられている。橋の熱膨張や、地震などの振動を、安全に吸収する構造を持つ、このジョイントは、橋の安全性と耐久性に、深く関わっている。そう気がついた時、僕はすごいと思った。

今まで橋の姿ばかりに見とれていた僕は、全く、今まで、この「縁の下の力持ち」の存在には、気を留めもしなかった。表に出る橋より、このすみのジョイントの方が偉く見えた。

皆から「美しいなあ」と、ちやほやされる橋そのものよりも、このジョイントの方がすばらしいと思った。はなやかな人生を送らなくても、僕は、このジョイントの様な、黙々と頑張る人生を、送りたいなあと思った。

僕は、その足で、自転車で、大手筋の金物屋へ行き、小さい缶の白ペンキを買って、割り箸を持って、すぐ、また、橋げたまで戻り、そのジョイントのそばのコンクリートの土台に、「DREAM、夢」とペンキを、割り箸にたらし書いて書いた。